

情報通信審議会 情報通信技術分科会
移動通信システム委員会 小電力システム作業班(第1回) 議事録(案)

1 日時

平成 23 年3月4日(金) 14:00~15:00

2 場所

中央合同庁舎第 7 号館西館(金融庁)13 階 1320 共用会議室

3 出席者(敬称略)

主 任 : 若尾 正義

構 成 員 : 姉齒 章、池田 光、加藤 数衛、近藤 俊幸、佐伯 隆、櫻井 稔、鈴木 正則、
曾根高 則義、高木 光太郎、田中 茂、中川 永伸(代理:保田 和之)、
中村 宏之、原田 博司(代理:児島 史秀)、矢澤 重彦

事務局(総務省) : 田原、浅井、畠山

4 配付資料

資料1-1	小電力無線システムの高度化・利用の拡大(案)	【事務局】
資料1-2	高度化等を要望する小電力無線システム	【(社)電波産業会】
参考資料1-1	小電力システム作業班 構成員	【事務局】
参考資料1-2	情報通信技術分科会の委員会再編	【事務局】
参考資料1-3	移動通信システム委員会 構成員	【事務局】
参考資料1-4	旧委員会の審議経緯等	【事務局】
参考資料1-5	移動通信システム委員会 運営方針	【事務局】
参考資料1-6	移動通信システム委員会 作業班構成	【事務局】

5 移動通信システム委員会の所掌等

事務局から、参考資料 1-2、1-3 及び 1-4 に基づき説明が行われた。

6 移動通信システム委員会の運営方針、作業班の設置等

事務局から、参考資料 1-5 及び 1-6 に基づき説明が行われた。

7 議事

(1) 「小電力無線システムの高度化・利用の拡大」の審議開始

事務局から、資料 1-1 に基づき説明が行われ、特段の意見等はなく、了承された。

(2) 業界団体における検討状況

池田構成員((社)電波産業会)から、資料 1-2 に基づき検討状況の説明が行われた。

主な質疑等は、以下のとおり。

主 任 P6の移動体検知センサーに関して、ビーム幅を広角にするよりも狭くした方が個別の情報を取得しやすいと思うが、広角を希望する意義は何か。

池田構成員 例えば便器の前だけを検知範囲にする場合はビームが狭い方が良いが、トイレの中の人間を広く検知したりする場合は広角が有利であると考えてい

- る。
- 主 任 トイレは赤外線を検知センサーを使ったものもあるが、電波を使用した検知センサーも増えているのか。
- 姉 齒 構 成 員 例としては、赤外線を検知センサーのものは高速道路のトイレでよく利用されているが、故意に壊される事例が多く発生しており、公共的な場所のトイレは電波を使用した検知センサーへの移行が進んでいる。
- 主 任 P9の動物検知通報システムの国内利用状況が年間約 1,000 台となっているのは、年間 1,000 頭の動物につけられているということか。
- 池 田 構 成 員 そのとおり。
- 主 任 街中のペットにはつけられないのか。イノシシやクマなどの野生動物だけが対象なのか。
- 姉 齒 構 成 員 区分けはなく、ペットも可能である。資料の 1,000 台については捕獲する量が決まっているためである。

(3) その他

以下の質疑等があった。

- 池 田 構 成 員 作業班で検討を希望する案件を2つ説明させていただいたが、その他に検討すべき案件があればご意見をいただきたい。
- 主 任 構成員の皆様からご意見があれば出していただき、随時、検討していきたい。
- 櫻 井 構 成 員 空中線電力のパワーアップの要望がある一方で、パワーアップした場合は干渉が懸念され現状の 10mW で良いとの意見もある。今後、新波が必要になった場合は、本作業班でその議論も行うのか。
- 事 務 局 基本的に増波しない前提で検討していただき、検討の結果、増波が必要な場合には、周波数需要を含めて個別の議論になると考える。
- 主 任 まず現行帯域で検討していただいて、その結果、増波する必要がある場合は、その必要性を議論することになるが、周波数が増波できるかは全体的な話であり、この場で結論は出ないと考える。